

”第二期コロナに負けない”信州応援基金 助成金使途の概要

活動内容・助成金使途概要	類似取組
◇こども・若者・高齢者・主婦などの居場所づくり、引きこもりからの脱却や孤立の解消支援	7
◇闘病中の子どもを持つ家族支援、専門家や家族間の交流の場づくり	1
◇子どもの学習支援、地域の方々との交流の場づくり	3
◇過疎化が進む地域の遊休農地などを利用した、親子農業体験	1
◇生活困窮者家庭に対する子ども食堂・配食などの食事支援・食材支援とその関連事業	8
◇生活困窮者家族などに対する生活や健康、進路などの相談活動	1
◇子どもへの暴力防止プログラム提供、プログラム策定スペシャリストの構成講座	1
◇支援学校児童・生徒と親のサッカーゲーム等を通じたコミュニティづくり	1
◇犯罪被害者相談・支援活動	1
◇オンライン会議システムを活用したパソコン操作講習会	1
◇台風19号台風被害者(とりわけ高齢者)の居場所づくり	1
◇障がい者の就労支援・避難所と居場所提供	1
◇オンラインを利用した子育て支援、保育士と保護者の交流場づくり	1

* 1団体で複数の取り組みをしているため、取り組み団体数は、助成団体の20を上回ります。

第二期 ” コロナに負けない ” 信州応援基金 助成団体の活動内容概要

「上限20万円助成コース」14団体、「上限50万円助成コース」6団体

審査NO	申請団体名	助成金額(円)	予算総額(円)	活動名称	内容
1	NPO法人 元気お届け隊	200,000	622,032	ひだまりカフェ (カフェという名の交流の場)	引きこもりがちの高齢者や主婦が、交流出来る場の提供。ワークショップをして、人と人がふれ合い、高齢者の孤独の解消をする為の交流する機会。ハンドメイド作家やアーティストとの交流の場。空きスペースの活用と地域の賑わい作り。タブレット端末とパソコン、プロジェクターなどを利用して、密集を避け、ソーシャルディスタンスの確保を可能にした、新型コロナ禍での新し形のリアルワークショップ及び交流会をします。コロナ禍において、引きこもりがちで、運動不足が引き起こす肥満や体調不良、社会からの孤立から生まれる疎外感や孤独感のストレスの軽減につながる交流の場を提供します。
2	一般社団法人 笑顔の花	200,000	200,000	信州こどもホスピス・プロジェクト	○信州こどもホスピス実現へ向けた、闘病中の家族への支援と仕組みづくり。・余命宣告を受けた闘病中の家族の終末期・ターミナルケア・医療的ケアなど24時間、在宅看護が必要な家族のレスパイト。・こども病院で入院する家族のための休憩滞在施設。・病児きょうだいの一時預かり、学習支援等 ○オンライン・シンポジウムの定期開催・催患者家族、ホスピス専門家、医療・行政関係者との意見交換会。・Zoomを活用し月一でテーマを決めて定期的に行って行きます。
3	夢かなえ食堂	200,000	255,000	どんな環境でも自分の夢をかなえる力を 育てよう子ども応援プロジェクト	このコロナ禍で、学校の勉強も進むのが早く、ついていけない子とついていけない子がいる中、塾にも行けない子供たちへ学習支援を開始しました。毎週金曜日に19時から21時、塾の講師の仕事もしている先生が勉強を見てくださる時間を設けています。また、部活帰りや学校帰りの子供には、軽食を食べられるようにしたりボードゲームなども用意し居場所を作っています。また、子供たちに「生きる力」をつけてほしいと料理教室も幅広い年代の子供たちが参加し、地元の食材を中心に使い、農家や地域の方々とのコミュニケーションも図っています。また、年に数回子供たち中心に地域の方に恩返しができる機会を設け、青空マーケットを行い、子供たちが地域の架け橋となれるイベントも開催しています。
4	特定非営利活動法人 わおん	200,000	206,629	子どもの集いオンラインの開催	食事の提供はできないが、信州こどもカフェの要素も取り入れた子どもたちのオンライン上での居場所づくりを行い、学校や地域について感じていることを話したり、学習支援をしたり、学校とは違う学びを提供したりする。今年度のこどもしおじりをオンラインで実施した経験も活かし、zoomのブレイクアウトルームも活用しながら、参加してくれる子どものニーズに合わせた対応ができるようにする(活動計画に具体例記載)。 また、学校でのように、みんなで集まり話をする際には板書をするのが非常に重要になる。そのため、オンライン上でも板書ができるシステムを構築するため、iPadとビデオスイッチャーを活用し、板書も見るができる環境づくりをしていく。
5	非営利ボランティア団体 「天空の里 いもい農場」	75,000	75,635	安心して集える食農体験活動へ。 「Withコロナ対策事業」	私たちは、芋井社会会館を拠点に、近隣の遊休農地・田んぼ・リンゴの木を地元からお借りし、子どもとその親、シニアまでの幅広い世代を対象に、食育・農業体験を中心とした活動の場を提供しています。2019年度は800人、コロナ禍で活動を大幅に縮小した2020年度も608人が集いました。2021年度は、感染拡大防止のために中止にした活動を、Withコロナで具体化する予定です。
6	特定非営利活動法人 みんなの手	91,680	161,325	「よりあい茶屋」みんなの手 (助け合い、支え合いの場)	コロナ禍における、外出自粛による地域住民のふれあい・つながりの機会が失われること等によって高齢者や生活困窮者(子育て家庭)が孤立や不安を抱えないよう、誰でも気楽に立ち寄ることができる場所を提供し、食事支援やレクレーション・健康相談などをおこなう。対象者は、活動場所からおおむね半径500m範囲に住居があり、必要ならば送迎をおこなう。
7	特定非営利活動法人 場作りネット	393,000	398,000	やどかりハウス	(日中の女性の居場所)海野街の民間文化施設(犀の角)の女性専用ルームを、お昼のリラックスルームとして活用できるようにする。部屋の空き状況では、男性も可とする。(相談支援へのつなぎ)ソーシャルワーカーとの面談を実施。必要な場合は、各関係機関への同行支援や支援調整を行う。(居場所作り)犀の角のカフェスペースを利用し食事支援を行う。また、子育てサークルへの参加や、各種コミュニティへ活動への斡旋、連携NPO法人への新たな繋がりとなる場を提供する。(広報、気軽な相談窓口作り)自殺者の増加が指摘されているが、女性を守る活動があるということを広く広報することで、生きることへの促進要因を増やすと共に、オンラインによる気軽な相談ができるように整備を進める。
8	NPO法人 コミュニティビジネスネットワーク長野	351,420	351,420	高校生・大学生を対象とした 居場所づくりの運営	長野駅東口に誰もが利用できるフリースペースを平成29年より運営している。今まで学生や社会人、新規創業者などが集まり、課題解決や各種相談などを実施してきた。コロナ禍になり、オンライン対応や勉強スペースとして活用したい旨、学生からの依頼が数多く寄せられたが、設備不充実のため利用は控えていた。ニーズに対応すべく、個別学習用のスペースに変更し、第2・第4日曜日を高校生専用の勉強スペースとして開放する。相談に乗れるようキャリアコンサルタントやカウンセラーを用意し、高校生の相談を受け付ける。ニーズが高まってきた場合は、開放日を増やす予定。施設の営業時間に、オンライン授業や就職活動をする大学生が無料で利用出来るようにする。
9	NPO法人 子ども・人権・エンパワメント CAPながの	200,000	200,000	CAPスペシャリスト養成講座 (ベーシック・ティーンズ)	子どもたちがいじめや誘拐、虐待、性暴力などのあらゆる暴力から自分を守るためのCAPプログラムを実施する学校や施設が増えていく。より多くの子どもたちに「安心・自信・自由」を届け続けるために子どもへの暴力防止プログラムを提供できるCAPスペシャリストを養成する講座を開催する。従来は無料で借りることができる公共の施設で開催してきたが、密を避けるために広い会場が必要となり、有料の施設を借りる必要が生じた。また、参加者の体温測定、除菌シートによる消毒を行い、不織布マスク、フェイスシールド、使い捨て手袋を使用して感染拡大を防止する。

審査NO	申請団体名	助成金額(円)	予算総額(円)	活動名称	内 容
10	ゆるやかサッカーリーグ	200,000	500,000	サッカーファミリーが安心して参加できる環境づくり	グラスルーツ普及を目的とした活動のため、多くのサッカーファミリーの参加があり、支援学校の生徒さんやお子さんからお父さんまで、すべてのカテゴリーのメンバーが同じグラウンドや体育館で一緒にサッカー、フットサルをゲーム形式で楽しむことができました。また、コウバシアターと命名したコミュニティスペースで、プロジェクターの大画面でサッカー観戦をしていました。
11	特定非営利活動法人 NPOホットライン信州	500,000	640,310	フードパントリー用物資の一時保管場所設置事業	①余剰食品の寄贈を協力企業より受け一時保管。主な協力団体(昨年実績) ・JAながの・JAグリーン長野・イチジウ・中日本フード・みずすコーポレーション・マルコメ・柿ノ木冷温・JA中野市・長野市農業研修センター、宮下冷蔵、塚麴商事など。 ②寄贈品情報を信州子ども食堂ネットワーク及び地域振興局の信州子どもカフェプラットフォームを通じてメールリストにて発信(メールの無い団体には個別対応)受け取りを希望する団体と受け取り日時を調整後に受け渡しを行います。 ③各団体で受け取った食材を子ども食堂などで支援が必要な方々に提供します。
12	特定非営利活動法人 てくてく	308,216	508,000	コロナ禍における安心・安全なコミュニティづくりによる社会的孤立解消と心身の健康増進の実現	①「コミュニティカフェてくてく」を新型コロナウイルス感染症対策した環境に整備したうえで孤立しがちな高齢者、障害者と子どもの交流イベント「ふれあい交流会」の開催(料理教室・食育教室など)(少人数に限定) ② 信州ACEプロジェクトAction(体を動かす)、Check(健診を受ける)、Eat(健康に食べる)でうたわれている環境と人にやさしい健康を配慮した「子どもACE弁当」の開発と販売。
13	特定非営利活動法人 犯罪被害者支援センター	195,360	195,360	コロナウイルス感染防止策を講じた支援活動に関する啓発活動	犯罪被害者(DV被害者も含む)に対する面接相談等の支援活動 当センターでは、犯罪被害者やその家族、遺族等を対象に、電話相談活動、面接相談活動、各関係機関(警察署、検察、裁判所、病院等)への付添い支援等を行っている。また長野県公安委員会から早期援助団体として指定されている県内唯一の犯罪被害者支援民間団体である。長野市、安曇野市に相談室を設け、犯罪被害者支援活動に従事し、必要があれば被害者のもとへ直接赴き、相談、支援活動を行っている。
14	認定特定非営利活動法人 フードバンク信州	500,000	566,200	コロナ禍の子育て家庭を応援する食料支援事業	小学生など子どものいる世帯で、コロナ感染拡大の影響により家計が困窮困窮状態となり、食料が不足している家族を対象に、Webサイト(QRコード)等からの食料支援の申し込みを受けつけ、フードバンク信州から各家庭の家族構成等に配慮し食料を宅急便で送付する。
15	NPO法人 辰野自立生活支援の会あかり	130,000	130,000	コロナに負けない「あかり」の自主事業	①ふれあい事業 ・あかりサロン⇒高齢者が家に閉じこもり介護が必要になるのを防ぐ。 ・古典に親しむ⇒万葉集を学び、生きがいをもつことで介護予防に繋げる。 ・短歌に親しむ⇒日々の生活の中で作歌に励み、豊かな気持で介護にならない生活を送る。 ②配食事業 ・高齢者や一人暮らしの人の健康維持のため、昼食に手作りの「あかり弁当」を届け見守りと共に食による健康維持に繋げる。 ③受託事業 ・オレンジカフェ⇒認知症の方、認知症が心配な方などが集い調理し食べ歓談して予防や認知症の抑制や改善に繋げる。 ・子どもカフェ⇒学習支援と食事提供を中心に土曜日の子どもの居場所となるような活動を進めている。
16	特定非営利活動法人 グループHIYOKO	200,000	658,440	オンライン パソコン講座	オンライン会議システムを用いてパソコン講座を行う。シニア層は動画配信サービスでのパソコン操作講習方法では、内容の理解や操作のスピードなど不安な要素が多い。オンライン会議システムを用いることで、一方通行の講座ではなく、途中での質問や操作ミスによる動作不具合にもその場で対応できるパソコン講座を開催する。機器を貸出すことで、自身のパソコンは講習内容の操作のみに使用できるので見やすさ、操作性の向上が期待できる。
17	特定非営利活動法人 Hug	169,300	169,300	子どもたちへの学習支援活動	学習へのつまずきや宿題への不安、不登校や対人関係の苦手さなどをもった子どもたちに対して日常的に学習支援をおこなっている。対象は主に小・中学生。支援にあたっては、退職教員など地域のボランティアの方々がサポーターとして多く関わっている。少人数による宿題の支援や、完全個別制の教科支援など、1人1人のつまずきに応じて支援をしている。
18	NPO法人 ホットラインながの	200,000	700,000	被災高齢者の居場所づくり推進事業	17年間の生活支援活動やまちづくりを基に、3年前から居住支援と発展させ、5年前から居場所づくりを展開してきた。19号台風被災者(とりわけ高齢者)の落ち込みを、身近に見るにつけ、激励の場所(共なる居場所)の環境整備を行う。
19	翠翔会	500,000	847,500	お菓子でみんなを笑顔に	障がい者の就労支援、障がい者の避難所、居場所の提供。 貧困家庭の子ども達へ無料でのお菓子提供。 子ども食堂などへのお菓子提供。物流拠点で事前につめたお菓子を配達し、現地で配布する。
20	NPO法人 山の遊び舎はらぺこ	200,000	206,120	コロナに負けず子育てを考えていこう！ オンライン化に必要な施設整備	認可外保育施設の運営事業と、地域の子どもやその家族に対する子育て支援事業を柱として活動しています。保護者が保育士とともに運営をしているため毎月数回、保護者と保育士が話し合う場を持っています。2020年コロナ禍において、会議や懇談の機会は中止や時間短縮を余儀なくされました。また、2008年より毎年開催していた、「子育てを考える集い」も開催することが出来ませんでした。2021年も続くコロナ禍で3密を回避しながらも当団体の事業を継続していくため、オンライン会議、オンライン公開講座が行えるよう環境の整備を実施します。

助成金総額； 5,013,976